

# 筆山

第61号 / 2016年12月

土佐中・高等学校同窓会  
関東支部会報

編集人 / 中平 公美子 (59回)

発行人 / 関東支部幹事長 市川 直介 (53回)

関東支部ホームページ:

<http://www.tosako-kanto.org/>



高校一年生東京研修 8コース JALパイロット養成施設見学中の生徒たち

高校一年生東京研修 医療コース

〜彼らの瞳は輝いていた〜

「やってくれんろうか。」

四十年前中学野球部の若き監督として、我々をすごいで、いや、若干厳しくご指導くださった小村彰先生の一言で始まりました。2008年のことです。「今の修学旅行は、生徒の将来を考えた、意味の深い行事となっている、お前らの頃とは違うぞ。」とも聞き、喜んでひき受けました。高校一年生、自分を振り返れば、進路に関して右顧左眄(うごさべん)していた頃です。その時期に、医師を目指す者、あるいは漠然と医療関係を考えている者へ、何かインパクト与えるものはないかと思案しました。それが、東京警察病院での研修では『手術の見学』です。実際に手術を見せて、強烈に脳裏に焼きつけてやれ、と。プライベートの問題が殊更に強く取り上げられる時代ですので、私の病院でも抵抗があると思いきや、各部署とも協力的で、当時の院長においては「私も、若者に伝えたいことがある。」と熱弁をふるっていただきました。その他、薬剤部や放射線部、意外にも東京中野から富士山がみえるヘリポートの見学も好評です。見学中の生徒たちの態度にも職員たちは感心し、「さすが、土佐高校」との評判で、今年年中行事として認知されています。

見学の最後に二十分ほど私自身がプレゼンテーションを行います。引率教員として同行している我が同級生の若かりし頃の写真への驚愕と笑いの中、医師としての様々な生き方を説明します。私もそうでしたが、近くに医師がいないと情報がなく、どのような道があるかわからないからです。後輩たちには、多くの情報に触れてから、決断してほしいものです。私からは二つの言葉を伝えます。「報恩感謝の念」と「ノブレス・オブリージュ(仏: noblesse oblige)」です。彼らがその言葉を実感するのは、もう少しあとかもしれません。彼らの瞳の輝きを見ているこちらにもエネルギーをもらえます。「あの時の生徒です!」と、研修医として現れてくれることを楽しみに、必要とされる限りは続けていきたいと思っています。(P10〜13に関連記事)

東京警察病院 整形外科部長 古澤達也(五八回)

# 第19回はちきん会

2016年10月15日



会場：銀座アスター御茶ノ水賓館

今年も総勢70人が参加して、盛りに盛り上がった「ハチキン会」。  
お茶の水の高層ビルに入る中華料理店で、上品なコースをいただきながらの3時間。  
老若ハチキンが入り乱れ(?)、こじゃんと飲んで、喋くって、笑うて・・・



あっという間の3時間となりました。  
ゲストスピーカーは、  
28回生で産婦人科医の青嶋武子さん。  
(写真左側)

昭和9年生まれ、  
御歳81歳です。  
同じ年に生まれた著名人には、  
初の宇宙飛行士・ロシアのガガーリン、そして、皇后美智子さまも・・・。



何より、青嶋さん、長い土佐校の歴史の中で、「初」の女性なのです。  
入学したのは、戦後間もない昭和23年。  
制服は「もんぺ」に「わら草履」だったものの、当時から「白線」はつけていたのだとか・・・。また、「校内に女子トイレがなく困った!」などの、貴重なエピソードを、クイズも織り交ぜて楽しくお話してくださいました。



卒業後は、東京女子医大に進まれた青嶋さん。産婦人科医を志したワケは、当時から「女医に診てもらいたい、という声が多かったから」だそうですが、決定打となったのは、「内科は、頭から足まで診るけど、産婦人科は“一箇所だけ”だから」なのだそうです。

その後、学生時代に出会った、当時、東大医学部の雄吾さんにご結婚。ご主人の米・ユタ州へ留学を契機に、一緒に渡米。昭和42年、青嶋さん33歳の時、現地で長女を出産されました。あの時代に海外で子供を産むなんて、、、さすが女医さん、パワフルですね。ちなみに、旦那様の雄吾さんは、後に「妊娠検査薬」を開発された名研究医でもいらっしゃいます。

現在は、3人のお子さんをもうけ、昨年80歳まで、現役の産婦人科医として活躍されました。「風と共に去りぬ」のスカールレット・オハラが大好きで、ハチキンに贈るメッセージも・・・「Tomorrow is another day!」（＝明日は明日の風が吹く）「へこたれたらいかん!」。御意。



さて、ハチキン会というと、“格安”の会費で“豪華料理”がいただけることも、楽しみの一つ。そんなことができるのも、多額の拠出を引き受けてくださる「ナイト（騎士）」の方々のお陰です。

今回のナイトは、ちふれ化粧品社長の片岡方和さん（40回・写真左）と、青嶋さんの同級生で元土佐校・校長の池上武雄さん（28回・写真右）。本当に有難うございました。



一般財団法人  
高知県産外高公社  
プロデューサー  
濱田知佐（56回生）

アルバイト  
 原田 健（87回生）  
 藤下 優（87回生）  
 高木 水（88回生）  
 高木 菜布子（88回生）  
 高木 菜鈴（88回生）  
 高木 真裕（88回生）  
 高木 斗理（89回生）  
 立本 侑（89回生）  
 立本 駿子（90回生）  
 竹田 内（90回生）  
 大内 幸海（90回生）  
 大内 幸乃（90回生）  
 大内 幸夏（91回生）  
 高橋 井卓（91回生）  
 高橋 卓也（91回生）

東京メトロ有楽町線  
銀座1丁目駅3番出口

●マリオン  
●ソニビル  
●和光  
●三越  
●メルサ

銀座わしたショップ  
みずほ銀行

[www.marugotokochi.com/](http://www.marugotokochi.com/)  
 Tel 03-3538-4351（サンゴ・血絆・ヨサコイ）  
 〒104-0061 東京都中央区銀座1-3-13

今年で19回目を迎えたハチキン会。来年は一体どんな会になるのでしょうか。まだ足を運ばれてないハチキンの皆さん！来年こそは、どうぞ気軽にお越しくださいませ！それでは、また来年お会いできるのを楽しみにしています。

# ハイクの会

平成二八年九月十日・十一日

松本城・上高地散策と乗鞍岳  
参加者四十名は新記録



## 二十年目を乗鞍岳で

ハイクの会も今年でとうとう二十回目を迎えた。高等学校のOBが集まり、毎年一回私的ツアーとしてバスを任立てて一泊二日の山登りをする、それだけのことではある。しかし

割と簡単に集まることのできるゴルフや飲み会とは違って結構手間のかかることをやっている。その活動が二十年を超えた。

かつて若かりし活動の中心メンバーは今や七十歳を超えている。長く続いたという意味では画期的な出来事かもしれない。構成員に遊び好きが多いこと、精神面での若さと情熱が失せないこと、面白くて内容が充実している



ること、などがその条件としてあげられるであろう。今年向かった先は岐阜と長野にまたがる乗鞍岳である。三千メートル峰としては、珍しく二千七百メートルまで車で行ける。頂上からは名だたる峰々、槍、穂高、笠、木曾駒、御嶽など、北・中央アルプスを指呼の間に臨むことができる。二十年目を記念すべき今年には好天に恵まれ、それらに加えて、黒部五郎、水晶、後立山連峰までもが、見えた。

## 特筆すべき話題

ここ数年体力に不安を感じる古くからのメンバーも、また初参加の人々も数多くが登頂し、感嘆の声があちこちに上がった

ことである。登頂者の最長老は三五回生の浅井和子さん、初参加で初登頂となった。「もうちょっと、もうちょっとです、と言われ騙され騙されて登りました」と言っておられた。七十歳後半である。土佐のハチキンの象徴といえよう。

## 前日の夜の部

高田谷、中島、西内、橋田さんらが余興として赤パンツを履いて松の木小唄の替え歌で踊った。「土佐の恥じゃ」という声もあったが、申年の今年、巢鴨まで行って買い込んだ赤パンツは効能あらたかで、長寿の神様が喜んでくれたせいも、翌日の快晴をもたらしてくれた。現金

が変わってこの好天は赤パンツのおかげという事にもなった。ここ数年参加している岡野家の子供たちもハイクの会を象徴している。三歳の玲奈ちゃんも今年も主役の一人であった。バスの中では愛嬌を振りまき、多くの爺婆をメロメロに、余興でも悪い赤鬼こと赤パンマンたちを退治した。四年生のヒデくんは先頭を切って走るように山を駆け上った。

## 帰途の俳句の部

三八回生の中島さんの句が天

に輝いた。注目すべきは五五回生の久万さんの朴葉味噌を題材にした句が選ばれ、加えて「新涼」という季語を入れた句も入選した。この言葉を選んだこと自体、驚いたと選者の中山さんがコメントした。初参加で連続入賞と今後が楽しみである。馬田さんの名幹事ぶりが功を奏し、今年も大成功のうち幕は閉じた。

濱田継夫

(三七回生)

## 俳句の部(中山世一選)

天 修濃路は風良きどころ蕎麦の花 中島 宏  
地 蕎麦の花丘の起伏の続きけり 吉川 弘明  
人 新涼の温泉深く歩みけり 久万 正道  
(互選最高点句)

## 川柳の部(中山世一選)

天 白秋を宅急便でお宅まで 池田 博臣  
地 もうすぐと騙され続け剣ヶ峰 浅井 和子  
人 朝どれのリングに勝る肌美人 森 郁夫



# 感動と成長の旅

土佐中生の

異文化交流体験

ガーナよさこい支援会

今年のガーナ高校生交流は、八月二日から五日間を東京で、九月一日から四日間は高知で行いました。

上京組の土佐中生十一名は、ガーナ高校生の宿舎飯田橋のユースホテルに滞在、交流受入れ校麻布学園の施設でよさこいの練習に励む傍ら、昨年度ノーベル医学生理学賞受賞者大村智博士との対話会、ロッテ浦和工場や明治神宮の見学会に参加、最終日は国際学生チーム「ロッテ・ガーナよさこい連」に加わり「原宿スパーよさこい」に出場して観衆を湧かせました。

高知では母校を舞台に始業式、英数の授業、運動・文化部活動、合同遠足（五台山、桂浜）など全校挙げてガーナ生を歓迎、ホームステイ受け入れも含めて多様な交流を行いました。

本稿では、東京遠征組の感想文を中心に、彼ら彼女らの生の体験と感動をお伝えします。

## ○よさこいの魔力

「初めてストリートで踊る練習をしたときは、二十分近くぶっ

通して踊ることがきつくて、いっそ倒れてしまいたいとも思いました。しかし、練習を重ねるうちに、次第に笑顔が増え、『この瞬間を楽しもう』という気持ちが強まってきました。また、練習を通して、ガーナ人、麻布生など前後左右の人達との会話が

増え、たくさんの人と友達になることができました。苦しさよりも楽しいという要素が勝り、本番も長いようであったという間に感じました。その間は何もかもが楽しくて夢のようでした。」（中三女子）

「踊りの途中でガーナのエンジェルスさんが、私に初めて笑いかけてくれて、今まで練習してきた甲斐があったなと思いました。スパーよさこいの本番で初めて全員の息がそろいました。今までで一番のダンスが踊れたと

## ○異文化交流を通じて

「初めてガーナ人達と討論をしたとき、私達日本人は完全に聞き役で、『Why are you so quiet?』『Say something!』と何度も言われたことを覚えています。私達は、自分の英語や意見

にあまり自信がなく、口を開くことをためらっていたのですが、彼らにとって、それは信じ難いことなのです。しかし、『集団

の中でベストなものを』という精神をもって議論すれば、『否定されるのでは』という不安も和らぎ、たくさん意見が出され、より良い結果が得られるのではないのでしょうか。少しの意識で変われると思います。ガーナ人たちと過ごした経験で得たその勇気を大切にしたいと思

います。」（中三女子）  
「色々な国の文化や生活をこの目で見てこの体で触れたいという思いが強くなりました。本気で勉強を頑張ろうと思いました。私は今回仲良くなったガーナ人とのつながりを大切にしたいと思

います。ガーナに対する興味も大きくなりました。ガーナに行ける機会があれば、必ず行きたいです。」（中三女子）  
「やっと自分の将来の夢が決まりました。そのため、中二の時に少し考えていた留学を、実現させようと思えました。まだ、英語が未熟なので、今からコツ

コツと勉強しようと思えました。去年もですが、今年はずっと感謝しています。やる気スイッチがONになった気がします。」（中三男子）

## ○ノーベル賞学者に会えた

「大村博士が、微生物が作る化学物質から作られた薬『イベルメクチン』により、オンコセ

ル力症という病気を、絶滅寸前まで追いやったことを知って、驚きました。会ってみると、とても優しい方でした。しかし、威厳も同時に感じられ、『やはり、この人は大人物なのだ』ということが、改めて分かりました。そして、『生まれ変わったらもう一度微生物の研究をやると思いませんか』という質問に、『はい』と答えていたのが印象的でした。この方にとって、微生物の研究というのは、それほど大切なものなのだと思います。同時に、自分も、ここまで情熱を注げるものに出会いたいと思

いました。」（中三男子）  
博士の研究の恩恵を最も受けたのはアフリカ。ガーナ人高校生の感想もご紹介したい。

「もっとも勉強になったのは『強い信念があれば夢は実現します。そして夢を持つということが人生で最も大切です』という言葉であり、心にずしんと響いた。」（高三男子）

「大村智教授との出会いは、僕の考え方がすっかり変わるものとなった。教授の驚くべき特性は強固な意志と行動力である。僕も教授のようにいくつ

かの事業を持ち、運営する人になればと思う。もう一つは思いやり。もし利己的な人であれば、北里大学×ディカル・センターも他の事業も存在して

いないであろう。」（高三男子）  
教育とは、単なる知識の供給ではなく、『自分がどう生きて行くかを考える』環境づくりではないでしょうか。ガーナよさこい交流が、皆様のご支援で、生徒たちの成長にこれからも一役買うことができればこの上ない喜びです。

（公文敏雄 三五回生 記）

銀座 7-12-4 友野本社ビル地下  
TEL 03-3545-3855  
**土佐酒蔵**

# 海外からの報告

## 西田稔(七二回生)

三井不動産株式会社 海外事業本部 海外事業二部  
二〇一四年より中国上海在住

七二回生の西田稔です。中国上海より近況をお伝えいたしました。本稿執筆を行っている現在、駐在生活も二年半が過ぎました。二〇一四年に赴任するまでは東京で主に都市再開発などのプロジェクトに携わり、次のステップとして何となく希望していた海外赴任の行先が中国でした。英語圏ならまだしも、言葉はおろか旅行すら行ったことがなかった中国で生活することになるとは、当時は想像すらしておらず大変驚いたことを今でも憶えています。

まず、とにかくプロジェクトのスケールが大きい！中国では、日本でめったに出会わない規模の開発プロジェクトがごろごろしており、それと同時に、期待される役割や投資額がとて巨大なものになります。

次に、判断が速い！責任者との会議では、その場で重要な意思決定を迫られることも珍しくありません。判断の根拠となる基本的な情報を確認すると、おおむね「没問題」(問題ない)。

### 一. 中国ではたらくということ

現在、私は上海市内でショッピングモールの開発プロジェクトを担当しています。

パジャマ姿やパンツ一丁で外を歩くことなど今や昔。ここ上海においては、日本同様にブランド品や世界各国のレストランが巷にあふれ、買いたいもの意欲も非常に旺盛です。日本でよく報道される中国経済の減速感など、現在の上海ではほとんど感じられないことにきくと驚かれることでしょう。

日常の仕事は、現地の中国企

ことを決断します。よって、我々の様な日本企業にとってはビジネス判断の基準が大きく異なり、合意形成に苦心することも少なくありません。

さらに中国では、いまだに個人の信頼関係でビジネスを行う側面が強く、日本以上に人間関係が重要です。面子(めんづ)の国でもあり、本音と建前も多いため、二年半経った現在においても新たな気付きが多くあります。

このように、過去の経験則が通用せず、言葉も文化も異なる環境ですので、たしかに苦勞は尽きません。しかし、これらに果敢にチャレンジし、新しい学びや発見が得られること。これこそまさに海外勤務の大きな魅力と醍醐味ではないでしょうか。

### 二. 中国という国と日本

経済減速、南シナ海問題、爆買い、PM2.5などなど、日本で連日報道されるニュースから、中国に対して、どこかネガティブなイメージを持っている方々も少なくないでしょう。

たしかに、五六もの民族と広大な国土を持ち、それぞれ言語すら異なる中国という国には、たとえ上海とはいえ、行列に割り込む、ゴミを平気で捨てる、釣銭を投げて渡すなど、世界屈指の大都市らしからぬ未成熟な価値観や慣習がまだ存在しています。それだけでなく、日本では当たり前前の参政権がなく、表

現の自由も制限されており、さ

らには悪く日本人が出てくる反日ドラマが繰り返し放送されているなど、国自体に大きな課題を抱えていることも事実です。しかし、私が知る限り、ともに仕事をする同僚や友人などの中国人はみな、それら自国の不甲斐なさや、周りの国からどう思われているかなどを客観的に認識しており、少なくとも自分とは一緒ではないと自覚しています。それどころか、日本に対してポジティブな興味と強い憧れをもっています。豊かな食文化にはじまり、美しい自然、礼節を貴ぶところ、ファッションやテレビ番組に至るまで、日本の影響を大きく受けています。現在日本で流行している音楽やドラマの知識なんて間違いなく私以上です。

もしも日本においてこのような人々の存在を知らず、十把一絡げに、中国はこれだからね…、やっぱり中国人はね…と、不必要な誤解やすれ違いが生じていたとしたら、それはとても残念なことですし、単純にもったいないなあと思ってしまうます。

日本と中国がもっと友好関係になれるよう貢献します、なんて大それたことを言うつもりはありません。ただ、自分自



# ふるさとへの手紙

角田果穂（八八回生）

学生生活もラストスパート。就職活動を終え、卒業論文とアルバイトと遊びに追われる日々を送っております。現在、学習院女子大学四年に在籍している八八回生の角田です。優秀な先輩方のもとに私が続くのは大変恐縮ではありますが、今回、『筆山』寄稿のお話を折角頂いたので筆を取らせて頂きます。

上京して四年。学生生活もあとわずかとなりました。十月に内定式を終え、学生の終わりが近付くともに、社会人へのカウントダウンが始まったような気がしています。来春からは、保険会社で働きます。四年前、浪人するか関西の大学に行くか東京の大学に行くか悩んでいたのを懐かしく思います。そして、複数の選択肢を与え、私自身に決断させてくれた両親には感謝しています。この選択が正しかったのかはわかりませんが、少なくとも、後悔はしていません。

私は上京した際、心がけていたことが二つあります。一つは、やりたいと思ったことは何でも

挑戦してみること。都会は、様々な分野で多岐にわたって挑戦しやすい環境があると思います。

私自身、帝国ホテルでのインターナショナルな懇親会のスタッフや、外務省でのインターン、海外ボランティア等経験することができました。田舎にいたら、存在すら知らなかったり、諦めていたかもしれないことでも、挑戦してみようかなという気持ちで湧いてくるのが都会の魅力だと思います。

二つめは、多くの社会人と話すこと。大学は、社会に出る前の最後の学生生活を送る場所です。なので、社会人が集まる会にはできるだけ足を運ぼうと考えていました。幸いなことに、

東京では土佐高の同窓会を始めとし、県人会など大規模な懇親会が多くあります。そこでは、各業界の第一線で活躍されている先輩方のお話を聞くことができます。普段簡単に近付けないような方もいらっしやいます

が、後輩だと知ると気さくに話しかけてくれます。参加する度、



土佐高の縦の繋がりの強さを感じていました。私たちの何倍も生きてきた先輩方のお話を聞くことで、多くの価値観を知り、自分自身の考え方の幅も広がったと思います。四月から社会人として新たにスタートしますが、

困難に直面しても、その都度乗り越え、その経験を笑って話せるような先輩になりたいものです。話は変わりますが、二年ほど前から高知に本店を構える土佐料理店『浪漫亭』の新橋店でホールスタッフとしてアルバイトしております。高知出身の方はもちろん、出張で高知に来られた際に高知を気に入って下さった



一般社団法人  
土佐婚倶楽部

婚活のお悩みを心を込めてサポート致します  
年に数回、合コン等やってます！詳細はHPで

代表理事・東京相談室長 織田祐輔（45回生）  
顧問弁護士 浦田理有（76回生）  
顧問 岩松潤二（45回生）

URL <http://tosakonclub.com/>

東京相談室 042-521-2020

〒190-0012 東京都立川市曙町1-12-19 吉田ビル401

方も多くいらっしやいます。県内出身の方にはよく出身高校を聞かれるのですが、土佐高の横の繋がりはもちろん、縦の繋がりの強さは大変羨ましがられます。この繋がりをこれからも大切にしていきたいなと思います。

最後になりましたが、今回、このような貴重な機会を下さった『筆山』編集部の方々に感謝致します。社会に出る前に、改めて上京してからの自分自身を振り返ることができました。また、私のこれまでの人生に関わって下さった全ての方に御礼申し上げます。筆を置かせて頂きます。



# 学生・若手社会人交流会

松岳 高（83回生）

私が社会人になったのは、今から3年前のことだ。「大学で学んだことは、社会では役に立たない」とはよく聞く言葉だが、私が仕事を始めて最初に思ったことは「この世界は、私の知らないことばかりだ」だった。そんな中で働きながら二年ほど経った頃、「もっとよく考えてみなさい」と上司から諭されることが多くなった。何を考えれば良いのか、そもそも考えるとはどういうことなのか…そのような哲学的な考えをしていたとき、私はこの会と出会ったのだった。

2015年11月、「学生・若手社会人交流会」が都内にて開催された。私は今回が初参加だったが、毎年開催されており、就職活動中の学生や入社数年の若手のために、ベテランの社会人たちが様々なアドバイスを送るといったことを目的としている。その中で記念講演があり、今回は37回生の竹本修文さんから数々の貴重なお言葉をいただいた。

## 「Studying」と「Learning」

これらの単語は、どちらも私が中学時代に習ったものだ。当時の私は「study」と「learn」の違いがよく分からず、「学ぶ」と一括りにして

いたのを覚えている。これらの単語について、今回の記念講演の中で竹本さんは次のようにおっしゃっていた。

「研究すること(studying)はlearningとthinkingから成り立つもので、前者は誰かが以前に考えて論文などに纏めたことを学ぶこと、後者は論文や教科書がなく初めから研究すること。」

私はこのとき、studyとlearnの違いを理解するとともに、自分に足りないものが何か、初めて気が付いた。思えば私は大学院時代、自身の研究のために先行研究の文献をいくつも読んだ。論文を読むことや新たな知識を得ることは好きだったし、先行研究の追実験やそれをゼミで説明することも苦ではなかった。ただ、その研究を受けてどういったことが考えられるか、ということを経験から指摘された際に、私はいつも言葉を詰まらせていた。私はlearningばかりに夢中になって、thinkingを二の次にしていたのだと、竹本さんの言葉が胸に刺さった。研究に携わる方々にとっては当たり前のことかもしれないが、これから卒業研究を始める大学生に、是非とも伝えたい言葉だと感じた。

## そして「Thinking」

「最も重要なことは考えること(thinking)」と、後に竹本さんがおっしゃっていた。当時の私は「研究において」という言葉が枕になっていると思っていたが、今にして思えばこれはすべてにおいて言えることかもしれない。初めに私が上司に諭された話をしたが、これもそうだ。例えば取引先との打合せも、相手がどのような人物かをまず知り、そのうえで良い方向に話を進めるために何を話すべきかを考えて発言しなければ、相手から良い回答を得ることは難しい。言葉にすると当たり前のように聞こえるが、これが案外難しく、私もまだまだ出来ていないのだと感じた。

「人間は考える葦である」とはパスカルの言葉だが、考えない人間はただの葦になってしまうのだろうか？ そうならないように、LearningとThinkingを繰り返しながら生きていこうと、今日も私は思う。

2015年11月15日  
東京大学駒場キャンパス  
生協レストラン  
講演者 竹本 修文（37回生）



(参考) 第1回のコース別研修

- 1) 三省堂・江戸東京博物館・立教大学
- 2) 早稲田大学・日本銀行・花王すみだ事業所
- 3) 弁護士会館・国会議事堂
- 4) 東京学芸大学・警視庁
- 5) 上智大学・日立・NHK
- 6) 高エネルギー加速器研究機構・つくば宇宙センター
- 7) 万有製薬・理化学研究所(筑波)・筑波大学
- 8) 東京大学・国境なき医師団・北里大学病院
- 9) 鹿島技術研究所・新日鉄君津製鉄所

# 土佐高1年生修学旅行 コース別研修 2016.11.22

貴重な経験を支える思いと  
社会人として伝えたいこと

1

## コース別研修 十七年目です

土佐中・高等学校  
教頭 小村 彰

「先生、こんなことをやりゆう学校があるで」。一緒に学年を組んでいた岡峯教諭のこの言葉から、コース別研修は始まりました。在学中に一度は東京に行かせたい。その思いは七八回生の学年主任となった当初から抱いていました。直前に卒業させた七二回生の修学旅行は中学校で九州に行きました。その七二回生の中に、東大受験の際、初めての東京で電車に乗るだけで舞い上がり、力を発揮できなかった生徒がいました。この反省から、せひ高校で東京に行かせたい、しかしそのためには、自由行動だけでなく、何か東京で「すること」が必要…、と考

諾をいただきましたが、とくにうれしかったのが同窓の宮岡等先生(北里大学)が病院見学まで受けて下さったことと、全く存じ上げなかった高エネルギー加速器研究機構の山崎良成先生が、関東支部総会で私のお願いにその場で応えてくださったことです。

えていたところに冒頭の岡峯教諭の紹介がありました。広島県のある高校が、首都圏でいくつかのコースに分かれて企業や大学を訪問しているという教育雑誌の記事でした。

この北里大学病院と高エネルギー加速器研究機構、さらに中谷元衆議院議員と市川直介弁護士がお世話下さる国会と裁判所のコースは、第一回から今年まで十七年間、一度も途切れることなく研修させていたたいです。卒業生とは関わりなく研修をお願いします。卒業生がお世話下さる研修場所は、生徒たちにとって自分の将来を身近にイメージでき、たいへん貴重な経験になっています。先方との交渉など教員にとっては慣れない仕事もあり、業者丸投げの修学旅行にはないしんどさもあります。全国区で活躍する人材を輩出するために、今後もこの取り組みは継続発展させていきたいと考えています。皆さまの一層のご支援・ご協力をお願いいたします。

まだ若かったこともあり、今なら二の足を踏んだであろう試みに猪突猛進。それまでほとんど面識のなかった方も含めて、かすかな糸を求めて首都圏の同窓の皆さまに連絡をとりまくりました。たくさんの方からご快

援・ご協力をお願いいたします。

## 2016年 修学旅行研修コース一覧

コース	午前研修場所	午後研修場所	参加生徒数
1	弁護士会館	国会議事堂～最高裁判所	38
2	三省堂	早稲田大学	17
3	東京証券取引所	日本IBM	22
4	TBS	富士通テクノロジーホール	29
5	東京大学	外務省	28
6	科学技術館	清水建設	36
7	高エネルギー加速器研究機構	つくば宇宙センター	40
8	JALパイロット養成施設	NTT情報ネットワーク総合研究所	32
9	理化学研究所	東京警察病院	28
10	順天堂大学体育学部	日本サッカー協会	7
11	中外製薬浮間事業所	北里大学付属病院	27



『医学部・病院最前線』を味わう  
北里大学医学部精神科学主任教授・北里大学東病院院長  
宮岡等（四九回生）

土佐高で同期の小村彰先生（現教頭）から話があり、私が北里大学に着任して少し後の二〇〇一年から、毎年、高一修学旅行の研修をお手伝いしています。2006年からは整形外科主任教授に就任された高相昌士先生（五八回生）と一緒に見学や講義を担当し、最近が高相教授に主な役割をお願いすることもあります。



大学の医学部は学生や医師の教育、医学研究、病院での臨床を担っているため、最初は医学部教育の紹介、基礎医学の研究場面の見学と紹介、病院見学からなるプログラムでしたが、約2時間という短い時間のため、旅行後だけでなく感想文などを参考に増やしています。

北里大学は救命救急センターが有名であり、生命に関わる重症の方が多く運ばれてきます。センターは毎年見学場所に含め脳出血の方が救急搬送されてきました。緊張する医療現場は見学には最適でしたし、さらに「まだ心臓は動いているが、救命は無理である」という医師の判断を耳にしたのは、高校生にとって衝撃的だったようです。少しでも病院最前線を味わってもらおうと、毎年、手術や救急場面を写真や動画で紹介しています。悪くなる人も出るため、最近はお互い「気持ち悪くなりそうだったら、下部から出て待って」とか「下向いていて」とか注意することになっています。「医学部受験で注意することは

【11コース 北里大学病院】

北里大学病院は、初めの印象がとにかく建物が大きいということでした。教授の話はとても面白く、わかりやすく興味深いものでした。説明の仕方がさすが教授だなと思わせるものでした。手術のシーンは少し気持ち悪くなりましたが、医師になるなら平気にならなくちゃいけないと、我慢してみました。

（中略）

北里大学病院にはヘリポートもあって吃驚しました。実際、その日はヘリコプターが患者を乗せてきたらしく、そんな重大事故がこんな日常で起こっているんだと思われました。また大学病院なので普通の病院では扱えないような手術を行っているそうですが、それなのに1日に行われている手術の数が100件を超えているそうで、それには大変驚きました。そんなに重い患者さんが日本にはたくさんいるんだと突きつけられたような気がしました。私はそれを聞いて医師になって一人でも多くの人を助けたいと改めて強く思いました。

きょうは、本当によい研修でした。将来に向けて頑張りたいと思います。（Hホーム 島田遥楓）



# 『オンリーワン』と言われる存在に

弁護士・歯科医師 堀内美希（七三回生）

## 第一 はじめに

初めまして。

私は、昨年度に続き、十一月二二日に開催された土佐高等学校校研修コース（法律）の学生さんとの意見交換会に参加させていただきました。

私は、日本で数少ない「歯科医師」と「弁護士」という2つの国家資格を持つ立場を活かし、日本の医療の発展に寄与できるように、国立研究開発法人日本医療研究開発機構研究公正・法務部にて日々仕事に取り組んでおります。意見交換会においては、



この二つの資格をもつ立場から質問に回答させていただきまし

## 第二 土佐校ライフでの

### 思い出

私が中学三年生だったとき、このたびの引率の先生でいらした鈴木先生は土佐高等学校に着任した一年目でした。当時、鈴木先生が一生懸命教えてくださったことに関わらず、思春期真っさかりの私たちは、時々（いや、頻繁に…）鈴木先生に反抗的な態度をとったりしたものです（本当にごめんなさい）。

しかしながら、鈴木先生は私たちと真摯に向き合い、私たちの個性を宝物のように大切に育ててくれました。そのような素晴らしい鈴木先生が土佐高等学校にて活躍されていらっしゃることを知り、大変嬉しく思います。

## 第三 在学生に

### 伝えたかったこと

私が在学生に伝えたかったのは、参加された学生さんはおわ



かりだと思えますが、参加した七人の弁護士は、取扱分野、働き方や性格がそれぞれ異なるということでした。つまり、外から見れば全員が同じ「弁護士」という職業で括られているものの、その実態は本当に多様であり、それぞれの弁護士が、まさに自分の個性をいかして自分の活躍できるフィールドをみつけ執務を行っているということです。

## 第四 最後に

私たちの個性を大切に育ててくださった土佐高等学校の発展に、今後どのような形で結構

これから社会に出られる土佐高等学校の在学生には、弁護士や裁判官といった法律の専門家（「法曹」）を希望するかどうかにかかわらず、これからできるだけ多くの方と交流して自らの感性を磨いて、自分のことをよく知ってもらい、自分の活躍できるフィールドを探して、その分野での『オンリーワン』と言われる存在になってもらいたいと思います。

ですので寄与させていただけますと幸いです。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



## 【1コース 裁判傍聴】

今日は、刑事裁判の傍聴をさせていただいた。被告人は窃盗の常習犯で、自分も罪を認めている自白事件だった。なので、被告の刑罰の重さがどの程度のもになるかが争点だったのだが、傍聴している時に驚いたことがあった。それは弁護士が被告に厳しい質問を投げかけたことだ。僕は今まで「辩护人」＝「訴えられた人を守る者」だと思っていたので、どういうことかわからなかったが、担当してくれた入江先生が後で説明をしてくれた。詰問をしていたのは、被告から反省の意志を表にあらわすための方法で、それにより情状酌量を狙っているとのことだった。（中略）

今回、貴重な経験ができてよかった。また、このような機会を下された先生方や弁護士の皆さまに本当に感謝しています。僕も将来は自分でやりがいのある仕事に就きたい。

（Sホーム 長崎隆晋）

TBSテレビ アナウンスセンター 品田亮太（八五回生）  
『伝えるという仕事』

二〇一六年一月二二日、早朝に揺れを感じて目を覚ました、あるいは約五年半前の東日本大震災の時の記憶を思い出された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

福島県沖でM7.4の地震が発生した日、日本中がその規模を心配し、テレビ局がドタバタしていた日に、後輩たちが来てくれました。

例年、TBSでは報道フロアを見学し、実際に使っているバラエティのセットなどを見てもらいます。「芸能人に会えんろうか」そう思いながら来てくれた生徒さんには、見学をしてみて驚きの方が大きかったのではないのでしょうか。報道フロアを駆け回る記者・ディレクター、長期戦を見据え次々と運ばれるおにぎりやサンドイッチ、絶えず叫び声が響く報道フロア、通常編成を変更して放送され続ける地震特番。入社三年目の私にとっても「異常」な光景、生徒たちの目はどう映ったのか・・・

土佐高を卒業し、もうすぐ七年になります。進学で上京し、社会人で働き出して、改めて修学旅行に組み込まれた企業見学の素晴らしさを感じました。高校一年生という、可能性の塊に、私たち卒業生は何をしてあげられるのか。

思い返してみると、私も修学旅行でテレビ局コースを選び、普段テレビを通して見てきた景色が目の前に広がっているのを見て、漠然と「マスコミで働きたい」という夢を持ちました（当時は赤坂コースがありました。私が、私は当時あったお台場コースに行っていました）。今回生徒たちが見た景色は、私が見て「楽しそう」と思った景色と少し違ったかもしれません。しかし、テレビ局の働き方の一つの面を見ることができたのではないかと思います。

「直接人を救う事はできない。ただ、間接的であっても、テレビの声を聞いて、映像を見て、救われる命があって欲しい。そういう思いながら私たちは災害報道に携わっています。」局内見学を終えた後、アナウンサーの働き方についての講義の中でこう話しました。全国に多くのテレビ局があり、たくさんの方が働く中で、きつと携わる全ての人々がそう考えています。あくまでもテレビ局の働き方の一面ですが、その一つの面を見て、「伝えるという仕事」を選択肢の一つにする生徒が居てくれれば、卒業生として母校に恩返しができるのかなと思います。

この土佐高校のTBS見学に携わるのは、三度目になりました。五一回の藤田徹也専務から引き継ぐ形で、局内見学などのアテンドをさせてもらっています。例えば、土佐高卒業後、色々な形で土佐の先輩方にお世話になってきました。先輩方は「俺も世話してもらたき」と言ってくださります。そして私もそう言いながら後輩たちの世話をします。「報恩感謝」から始まる温かい人と人との繋がりが、大事に大切にしながら受け継いでいければと思います。

「局内見学

【4コース TBS】

TBSを訪れる前、私には心配事がありました。それは、その日の朝、福島沖で地震が起こっていたことです。これの影響で最悪見学ができないんじゃないか・・・と思いましたが、TBSの方々の協力でなんとか見学させていただきました。

TBSの報道フロアは地震の報道でピリピリしており、皮肉にもテレビを見ているだけでは伝わらない現場の緊迫感を強く感じることができました。そのような中でも、ニュースのスタジオを拝見させてもらったり、クロマキーの実演をさせていただいたことは、本当にありがたかったです。

局内を案内してくださったアナウンサーの品田さんは土佐高の85回生ということで、とても親切にしてくださいました。アナウンサーの紹介をする時も、笑いを交えながら話してくださいました。驚くことにTBSの取締役専務の方も土佐高の51回生だということで、自分の学校の卒業生が遠く東京ですごい仕事をしていると思うと感慨深くなりました。（Oホーム 西岡裕人）



# 母 校 便 り 学校長 山本芳夫（40回生）

関東支部同窓生の皆様におかれては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素は母校に対し格別のご厚情とご支援を賜り心から感謝申し上げます。



続きご検討中の皆さんにおかれましては、本制度の趣旨にご賛同賜り、ご無理の無い範囲でご協力いただければ幸甚に存じます。尚、ご寄付の内訳や活用方法については、学校のHP上「新世紀募金ニュース」としてアップしておりますのでご参照下さい。

## ○ガーナ高校生の

### 来高について

九月一日、二十名のガーナ高校生が三年ぶりに来高し本校を訪れました。一行は八月下旬に来日、恒例の原宿での「スーパードよさこい」への参加などを経て高知入りし、本校では授業参加や部活体験を始めとした土佐中高生との交流行事に臨みました。最初は少し緊張気味の双方の生徒たちもすぐに打ち解け、友情が通い合う国際交流の場となりました。加えて、保護者のご協力による二泊のホームステイは、日本人のおもてなしの心を知る貴重な機会となり彼等にとって得難い体験になったことと思えます。この行事を十年以上企画運営し日本・ガーナ両国の友好に大きな貢献をされてこられた「ガーナよさこい支援会」の皆様にご

○「新世紀募金」について  
新しい寄付金制度として立ち上げました「土佐中高・新世紀募金」の案内パンフレットを先日郵送させていただきましたが、早速多くの同窓生の皆様からご厚情を賜り、本

当に有難うございます。引き続き謝申し上げます。

## ○第六九回運動会について

台風十六号とその後の悪天候の影響を受け、当初予定より二日順延して九月二十四日（土曜）開催となった今年の運動会でしたが、当日は爽やかな秋空に恵まれ、高三生（九十二回生）が創意を凝らし制作した櫓が立ち並ぶ中大勢の来場者を迎え、今や初秋の風物詩となった運動会が盛大に行われました。伝統の中で練り上げられスピーディーに展開される各種競技・演目の数々とそれに直向きに取り組む生徒達の姿は、多くの観衆の感

を膨らませております。例年のこと

ですが、訪問先の同窓生の皆様には何かとお世話になっております。この「筆山」をご覧になる時点では既に訪問が終わっていると思えますが、色々有難うございました。因みに、生徒への事前希望調査では十一コース中のベストフリーは以下の通りでした。

- 一位、高エネルギー加速器研究機構・筑波宇宙センター。
- 二位、弁護士本館・国会議事堂・最高裁判所。三位、科学技術館・清水建設。

## ○今後の主な

### 学校行事について

○高一生の修学旅行について  
高一生は、十一月二日か三日の四泊五日の日程で東京・京都の修学旅行に出掛けますが、東京二日目に予定しているコース別研修に期待

きます。

向寒のみぎり、関東支部の皆様のお祈り申し上げます。を心からお祈り申し上げます。（平成二八年十月末 記）



# 関東支部 イベント情報

土佐校関東支部HP <http://www.tosako.org/>

## 関東支部総会

日程：平成29年6月3日（土）  
 場所：東海大学校友会館  
 （霞が関ビル35階）

## 学年幹事会

日程：平成29年2月18日（土）  
 場所：東海大学校友会館  
 （霞が関ビル35階）

平成29年度の総会幹事年は卒業回生末尾7の回生の方たちです  
 学年幹事会では13時から打ち合わせ準備会を行います。7の回生の力を集結しましょう。

## 筆山会新年会開催のお知らせ

平成29年 1月14日（土）12:00～（11:30 受付開始）

新日鐵代々木倶楽部（03-3370-3141）

参加費：男性 7,000円 女性 5,000円

同窓生と新しい年の幕開けを祝いましょう。



おひとりで、また同窓生と共に、多数の参加をお待ちします。

参加される方は下記に電話またはメールでご連絡ください。

前田憲一（080-3364-8885 kmaeda@s4.dion.ne.jp）

中村裕子（090-2633-6124 hiroko-n-kisa@jcom.home.ne.jp）

会場から徒歩数分の明治神宮への初詣を兼ねて参加される同窓生もいます。



## お悔み申し上げます

26	門田 満夫	2014. 6. 20
290	吉永 壽男	2015. 9. 29
290	前田 孝雄	2015. 10. 14
34S	合田 佐和子	2016. 2. 19
36T	山本 一哉	2016. 4. 4
38K	岡田 四郎	2016. 4. 13
30K	崎岡 順一	2016. 4. 28
28N	永松 孝充	2016. 7. 13
41N	須藤 博志	2015. 7. 28
43K	笹岡 峰夫	2016. 9
750	森本 浩之	2016. 10. 23

## 初代校長墓参

33回 島村眞智子



三根円次郎氏は明治六年長崎県の生まれ。同三十年東京帝国大学哲学科を卒業後、福岡県立東筑中学校教諭に就任し、佐賀県立第三中学校より、徳島・山形・新潟各県で中学校長を歴任、大正九年土佐中学校に初代校長として招聘され、以後十五年、土佐の地に「健・研・儉」の全人格教育を掲げ、昭和十年の急逝まで、生涯を中等教育に捧げられました。

三根氏は自学自習を重んじ、親しく机間巡視されたといひます。精神の自由と規律を求め、生徒一人一人を「凡庸に墮する勿れ」と激励し、生徒は「お父（とう）」と方言で呼んで慕ったと聞いています。

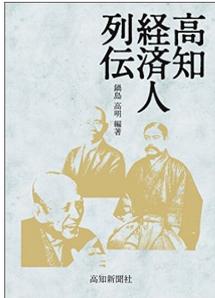
十月二九日、会長ご夫妻・筆山会員十一名は昨年に続いて、三根校長・岡村一初代会長が眠る多磨墓地に詣りました。草を抜き花を飾りお線香を捧げたあと、いつしか建学の精神に思いを馳せ、母校を語り故郷を懐かしむ昼食会は、すがすがしく、帰路は国分寺崖線を辿り、深大寺の白鳳仏 釈迦如来倚像を拝しました。



# ★出版レーダー★

倉橋由美子 (29回生)  
「新編・日本幻想文学集成1」  
〈2016. 6 ¥5, 400 国書刊行会〉

鍋島高明 (30回生)  
「高知経済人列伝」  
〈2016. 8 ¥2, 160 高知新聞社〉



尾池和夫 (34回生)  
「あっ地球が…」  
〈2016. 10 ¥2, 700 マニュアルハウス〉



塩田潮 (40回生)  
「安倍晋三の憲法戦争」  
〈2016. 10 ¥1, 728 プレジデント社〉



黒鉄ヒロシ (41回生)  
「珍刀譚変剣記」  
〈2016. 8 ¥1, 512 PHP研究所〉



高山宏 (42回生)  
「アレハンドリア アリス狩りVI」  
〈2016. 10 ¥3, 456 青土社〉



坂東眞砂子 (51回生)  
「瓜子姫の艶文 (文庫)」  
〈2016. 10 ¥605 中央公論新社〉

川村 静児 (52回生)  
「重力波とは何か アインシュタイン  
が奏でる宇宙からのメロディー」  
〈2016. 9 ¥842 幻冬舎〉



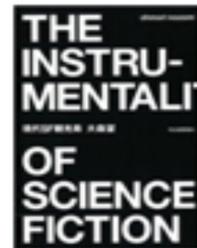
門脇護 (53回生)  
(ペンネーム 門田隆将)  
「死の淵を見た男 (文庫)」  
〈2016. 10 ¥907 KADOKAWA〉  
「リーダーの本義」  
〈2016. 6 ¥1, 512 日経BP社〉



英保未来 (54回生)  
(ペンネーム 大森望)  
「時間衝突」  
〈2016. 9 ¥1, 123 東京創元社〉



「現代SF観光局」  
〈2016. 9 ¥2, 052 河出書房新社〉



私の一冊

『もりもりさまの森』

田島征三(三三四回生)

本書は絵本作家の田島征三さん初の創作童話です。本作は都内に産業廃棄物処理場が建設される際、反対運動をされたご自身の活動や経験を動物の視点で描かれています。

多くの動物たちが暮らしていた美しい森に突然、人間がやってきて山を切り崩し、木々を切り倒しごみ処理場の建設が始まります。それに立ち向ったのは森に住む動物たち。肉食動物も小動物も協力して奮闘するもの…。

かわいらしい絵とは異なりストーリーはシビアで衝撃的。自然破壊によって起こる現実がストレートに表現されています

遠藤瑞枝(六七回生)



2016. 7 ¥1, 512 理論社